



企画にあたって

辻田賢一

(熊本大学大学院生命科学研究部循環器内科学教授)

温度センサー付きガイドワイヤなど、冠微小血管抵抗値を直接計測するモダリティが登場し、interventional diagnostic procedure (IDP) や functional coronary angiography (FCA) といった新たな包括的虚血検査法が普及した。それにより、冠微小循環障害 (CMD) の評価が臨床医にとってより身近なものとなり、各種心疾患の病態に深く関与する CMD が今また大きな注目を集めている。

CMD は、ischemia with nonobstructive coronary arteries (INOCA) の主要な虚血病態の1つであるだけでなく、閉塞性冠動脈疾患やさまざまな心筋疾患にも併存することが知られている。これらの心筋疾患の一部には、近年病態進行を特異的に抑制する疾患修飾治療も数々開発されているため、併存する CMD をもリバーシブルに制御可能なのか医学的な興味は尽きない。また INOCA は、HFpEF の早期基盤病態として認識されており、高齢者心不全パンデミックのなか、心不全前駆病態としてもその早期診断、先制治療法の開発は欠かせない。

虚血医にとっても、冠循環における心筋虚血を考えると、心外膜冠動脈病変のみならず冠微小循環領域の障害の程度も鑑み、虚血の主座がどこにあるのか、冠循環全体の coronary physiology を把握し、虚血解除を試みる、そんなテーラーメイドの精緻な虚血性心疾患診療の到来を期待したい。

本特集では、今われわれが手元に有する CMD エビデンスを紹介し、虚血医のみならず心不全医にも CMD を理解し身近に感じてもらう工夫を施した。また、若手医師にも CMD を基本から理解してもらうべく、冠微小循環の解剖、病理、その調節機構の解説も織り込んだ。CMD に関する基本知識の整理と最新情報の紹介で、日常臨床の個々の症例に潜む CMD を鋭敏に診断し、認識いただく一助としていただければ望外の喜びである。

最後に、多忙な日常業務のなか、本特集の目的を達成するために、意欲的な原稿をお寄せいただいたエキスパートの先生方に心より感謝申し上げます。